

“Future Dryland”

－ステークホルダーとの協働による学術・社会をつなげる超学際研究－

世界

Future Dryland 1 (To The Future Dryland)

日本・鳥取

超学際研究の取り組み

- 国連砂漠化対処条約 / 科学技術委員会 (UNCCD/CST)、IPBES などの国際機関会合・ワークショップなどへの参加を通じた、研究成果の発信及びステークホルダーのニーズの理解
- 人間の福利向上に向けた、人文社会系研究による様々なステークホルダーのニーズの掘り起こし
- 現地政府機関、地方行政府との意見交換
- JICA、JETRO、NGO・NPO などのワークショップ開催

国際乾燥地研究教育機構

乾燥地の研究課題

- 世界の中の乾燥地の役割の解明。
- 地球温暖化に伴う極端現象(熱波、干ばつ、豪雨など)といった自然現象と人間活動(過耕作、過放牧など)による乾燥地環境変化(災害発生メカニズム)の理解とその対策の立案。
- 乾燥地における、人間の福利を充実させるための持続可能な開発(持続可能な土地管理(SLM)アプローチ、参加型育種などの推進)
- 持続可能な未来に向けての転換のための知識集積。

乾燥地と日本・鳥取を繋ぐ研究課題

- 乾燥地と日本、鳥取との関係解明(乾燥地への貢献と乾燥地からの恩恵)。
- 北東アジア地域(環日本海地域)との交流推進。
- 乾燥地と日本の過疎地域(鳥取)の共通課題のリストアップ(例. 都市の一極集中)。
- 乾燥地におけるビジネスチャンス(例. 食糧生産、鉱山開発)。鳥取の企業の乾燥地への進出。
- 乾燥地起源の黄砂・PM2.5の健康影響・生態系影響の調査及びその対策の立案。
- 鳥取砂丘がつなぐ鳥取と世界の乾燥地(鳥取砂丘が育んだ人と自然の関わりの世界展開、先進的な砂丘観光、開発事例の導入等)

超学際研究の取り組み

- 鳥取県・市町村とのワークショップ開催
- 商工会議所、JA、JETRO、NGO・NPO などのワークショップ開催
- シンポジウム、市民向け講演会などの開催

研究成果の普及

研究課題

研究成果の普及

ニーズの理解

ニーズの理解

多様なステークホルダー

- UNCCD などの国際機関
- 乾燥地の住民
- 乾燥地を含む海外政府機関
- 乾燥地の地方自治体
- NGO・NPO
- 企業(経済界)

学際研究
(Inter-disciplinary)

農業・農村開発 PJ

黄砂・環境修復 PJ

海外連携機関

過疎地域・産業振興 PJ

砂丘地保全・活用 PJ

人間開発 PJ

超学際研究：ステークホルダーとの協働
(Trans-disciplinary)

学術・社会を繋げる布石

多様なステークホルダー

- 日本国民・鳥取県民
- 日本国政府
- 地方自治体(鳥取)
- 地方自治体(他の過疎地)
- 地方自治体(都市)
- NGO・NPO
- 企業(経済界)

研究成果の普及

Future Dryland 2

研究成果の普及

超学際研究の発展

ステークホルダーとの協働企画 (Co-Design)・協働生産 (Co-Production)

研究計画段階から、様々なステークホルダー(国内外政府機関、地方自治体、産業界、市民、NGO など)を巻き込み、研究活動の設計 (Co-design) と研究知見の創出 (Co-production) を行う。

学際研究の発展

ステークホルダーのニーズを捉えた研究